2023 年度　教育イノベーション推進事業採択取組

総合政策の歩き方

【取組概要】

創設以来、学問領域横断的(interdisciplinary)な視点に重きを置いた教育プログラムを提供し、およそ 7,000 人の卒業生を輩出してきた総合政策学部においては、社会のさまざまな分野の第一線で活躍する卒業生たちを講師として招き、「創設 30 周年記念卒業生による講義シリーズ」を行うこととなった。この企画により、学部創設時からの教育理念であり、新カリキュラムの基本方針にも掲げている「政策と文化の融合」が、個々の事例において具体的にどのように実践されているかを検証し、「総合政策学とは何か？」について、在学生・教職員が共通認識を今一度確認する貴重な機会が得られている。

この講義は、学部の教育プログラムが卒業後いかに社会で活かされているかの実証であり、在学生のみならず、教職員にとっても総合政策学部の教育の成果が社会においてどのような形で実を結んでいるかを確認する貴重な機会である。したがって、この講義シリーズを単に記念行事として終わらせることなく、これを基盤として、

① 本学部の教育政策の PDCA サイクルの実践（２０２４年度カリキュラムをより充実したものとして運用するための分析・検証、新規プログラム開設の可能性の模索)、
② 卒業生のキャリアを通じた本学部の学修成果の可視化、
③ 卒業生、在学生、教職員相互の関係から生み出される新たな教育価値の創造

等の取組みを行うべく、以下 3 種類の冊子を刊行し、学部教育の質の向上に向けて活用する。

①『総合政策の歩き方 Part I～総合政策学って何？』（理論から実践へ）
②『総合政策の歩き方 Part Ⅱ～社会を動かす力』（起業編）
③『総合政策の歩き方 Part Ⅲ～行動する総政～』（過去～現在～未来）

【期待される効果】

（１）学生の主体的な学びへの支援

本取組の成果物となる冊子は、卒業生が、本学部在学中に、「政策と文化の融合」という教育理念の下、「何を学び、何を身に付けたのか」を在学生に対して講義という形式を通じて、具体的な事例を提示することで、在学生が入学から卒業まで目的意識を持って主体的に学ぶための礎となることが期待される。本取組は、本学部における学修が単に学位を得るためのものではなく、学生一人ひとりが人生の方向性を模索し、社会において自身の持てる力を生かし、よりよい社会を作るという「利他の精神」のもとに成熟した社会人となるための生きた学びであることを自覚させるきっかけとなることが期待される。

（２）現役生・卒業生による学部運営への参画――学生記者・編集者

総合政策学部では、創設当初から、学生が主体的にさまざまな活動を行ってきた。学部創設初期から現在に至るまで毎年 100 名以上が参加している「よさこい祭――期一笑」、本学部生が立ち上げたミュージカル劇団「The 座」、他大学の総合政策学部生との「交流会」や「総政市」という学部生同士の研究・ディスカッションの場、研究成果を発表する「リサーチフェスタ」など、学生が主体となって発案、企画、実施し、学部の活性化に大きく貢献してきた。しかしながら、近年はコロナ禍による授業のオンライン化も相まって、学生同士のコミュニケーションや学生と教職員との関係が以前と比較すると希薄になりつつある。ただ、コロナ禍の間でも、オンラインで「リサーチフェスタ」を行うなどの工夫はなされていた。また、よさこいや The 座の活動は一時中止となりながらも、コロナ明けには以前と変わらぬ熱量をもって先輩から後輩へ引き継がれている。これらことは、総合政策学部の学生たちの持つ自発的な探究心と行動力、学びへの意欲が世代を超えて受け継がれていることの証であり、教職員の創意工夫に基づく新たな教育活動を行えば、学生らの学びに対するエネルギーがさらに自由かつ活

発に発揮され得るという期待をもたらした。

このような学部の現状を踏まえて、本取組の元となった「創設 30 周年記念卒業生による講義シリーズ」をきっかけに、学生 FD 団体の組織が提案され、学部の様々な活動において学生と教職員との協働を志向している。本取組の具体的な活動である、冊子の発行についても、学生がインタビューや編集作業に携わることにより、学生が主体的に卒業生や教職員との交流をはかり、その経験から得た学びを自身の成長に役立てるという、新たな教育価値の創造の場となることが期待される。

また、現在、日本の大学において先進的な教育分野として注目されている「アントレプレナーショップ教育」や「リーダーシップ教育」を本学部の教育プログラムに取り入れるための可能性の模索、素地の醸成という視点においても大きな効果が期待される。

（3）キャリア形成へのバックアップ効果

本学部の卒業生の多くは所属する組織においてリーダー的もしくは中核をなす存在として活躍している。また、起業している卒業生も多い。本取組を通して、卒業生と在学生とのつながりを強化することにより、将来、卒業生が所属する組織におけるインターンシップや会社訪問の可能性が広がり、在学生のキャリア形成への継続的なバックアップ体制の構築が期待される。

【取組実績】（2023 年度末時点）

卒業生による講義シリーズの講演録を中心に、3 種類の冊子を刊行し、附属 4 高校や指定校 213 校へ配付した。

① 『総合政策の歩き方 Part I～総合政策学って何？』（理論から実践へ）

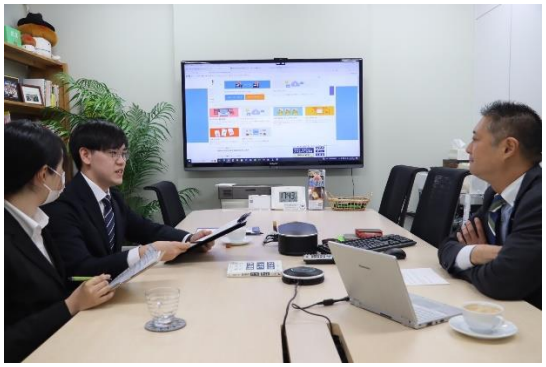
2024 年度以降、1 年次必修科目である「総合政策概論」の教材として活用予定であり、在学生が入学から卒業まで目的意識を持って主体的に学ぶための礎となることが期待される。

② 『総合政策の歩き方 Part II～社会を動かす力』（起業編）

起業家 2 名の講義内容の他に、学生記者によるインタビューを実施し、「キャリア教育の指南書」となるパンフレットを作成した。本取組がきっかけとなり、在学生と卒業生との繋がりが形成され、将来、卒業生が所属する組織へのインターンシップや会社訪問の可能性が広がり、在学生のキャリア形成への継続的なバックアップ体制構築への道筋が形成されたと言える。

また、本パンフレット作成にあたっては、学生エディターを募集、選任し、卒業生へのインタビューや、編集の役割を一部担わせることで、カリキュラム上の授業では修得できない、知識や経験を与えることができた。インタビューにあたった学生らは、TV プロデューサーとしての経験を持つ卒業生講師から取材術や記事に使用する写真の撮り方の指南を受けた。これは、教育イノベーション推進事業が目指す「実践や応用を取り入れた学び」のための新たな教育手法の一例であったが、1 年生 4 名の学生エディターにより、これを実現することができた。

彼らにおいては、本パンフレットの主テーマであった、「キャリア教育の指南」を会得するとともに、「総合政策学部で学ぶこと」を改めて意識し、残り３年間をどう過ごし成長していくか期待するところである。更には、彼らを中心とする在学生たちに、今後、学部内で組織される学生ＦＤ団体（40 名程度）の取組へ参加させることも計画しており、これらの活動から得た学びを自身の成長に役立てるという、新たな教育価値の創造のスキームとなることも期待している。



学生エディターによる卒業生へのインタビューの様子

③　『総合政策の歩き方 Part Ⅲ～行動する総政～』（過去～現在～未来）

2024 年度から始まる新たなカリキュラムの紹介、学則に定める学部の教育・研究の目的や、３つのポリシーについて掲載し、現役生のみならず、受験生への広報、教職員間における学部教育理念の共通理解（教職員ＦＤ）の資料として活用を開始している。

公式 Web サイト総合政策学部のページに「創設 30 周年特設サイト（卒業生講義シリーズ）」を開設

本取組で実施したイベントや、冊子に掲載出来なかった講演について、Web で発信すべく、公式 Web サイトの総合政策学部のコンテンツのひとつとして、「創設 30 周年特設サイト（卒業生講義シリーズ）」を開設し、在学生、教職員のみならず、広く一般に公表している。「創設 30 周年特設サイト（卒業生講義シリーズ）」

発送作業は堤学部長、黒田推進委員長も参加！

学生エディターも発送作業に奮闘してくれました